

遊びも調査も「安全」^{ぜんてい}が前提だ！！

☑ 帽子^{ぼうし} (熱中症、日焼け・虫さされ防止)^{ねっちゅうしょう ひ や ぼうし}

☑ 長袖^{そで} (虫、植物によるかぶれ、日焼け防止)

☑ 手袋^{ぶくろ} (転倒時のけが防止)^{てんとうじ}

☑ 長靴^{くつ} (ヘビ、ダニ、けが防止、サンダルは×だ！)^{へび だに けが 防止 サンダルは×だ!}

☑ クマ鈴^{すず} (クマに会わないように)^{くまに 会わない ように}

☑ 水辺に行く場合、救命胴衣

で安全に、楽しく格好よく楽しもう。^{かっこう}



さがしに行こう！

さがわむらの

里山生きものの

ず かん
図鑑



生きもの育む 鮫川村の環境



森林



草地・農地



田んぼ



か せん 河川



ビオトープ



ため池



き けん
危険な場所に行く
ときは大人と一緒
に行こうね！

鮫川村オリジナルキャラクター
大地の妖精「ゆうきくん」

ビオトープとは、生きものが生活
できる場所のことで、自然環境の
保全や再生を目的として整備・管
理されているぜ。



ゆう すい みず べ
湧水や水辺の植生環境
が好きな魚



草が生えている「ガサガサポイント」は見過ごせないポイントだ。

夏に水が「ヒンヤリ」する場所は、地下から水がわき出ている可能性がある。めずらしい生きものがひそんでいるぞ。

「ヒンヤリ」と「ガサガサ」で、
自分だけの秘密のポイントをさがせ！

水がヒンヤリしている場所は、湧水がある可能性が高い。また、小さな魚は水際の植生に隠れることが多い。このような環境は全国で減少傾向にある。ヒンヤリポイント（湧水）とガサガサポイント（水辺の植生）がしっかり残っているというのは、鮫川村の強みのひとつだ。



ホトケドジョウ

環境省レッドリスト：
絶滅危惧ⅠB



ヒガシシマドジョウ

福島県レッドリスト：
準絶滅危惧



キタスナヤツメ

環境省レッドリスト：
絶滅危惧Ⅱ類



ギバチ

環境省レッドリスト：
絶滅危惧Ⅱ類



カジカ

環境省レッドリスト：
準絶滅危惧

ランクが高い

ランクが低い

絶滅＞野生絶滅＞絶滅危惧ⅠA類＞絶滅危惧ⅠB類＞絶滅危惧Ⅱ類＞準絶滅危惧※ 情報不足

絶滅危惧種（絶滅のおそれのある種）



田んぼやため池など、 止水環境が好きな魚

田んぼ



田んぼは、お米をつくる場所だけではないんだ。田んぼには魚や昆虫など、たくさんの生きものがすんでいるのだ。

ため池



ため池は、農業に必要な水を貯めておく場所なんだ。ため池にも魚や昆虫など、たくさんの生きものがすんでいるのだ。

ビオトープ



さらに、鮫川村の田んぼには、ビオトープも作られているよ。田んぼ×ため池効果で、水生昆虫がいっぱいだ！

ドジョウ 環境省レッドリスト：準絶滅危惧



ドジョウは田んぼやため池など、さまざまな環境に見られる身近な魚であるが、変わった特徴がある。

- ・1つ目は魚なのに水面から空気をすうことができること。
- ・2つ目は体がしめっていれぱうねうねと陸を移動できること。

もともと浅くて干上がりやすい、まさに田んぼのような環境へ適応した魚だ。

ドジョウ、ホトケドジョウ、ヒガシシマドジョウの見分け方

ドジョウは口ひげ10本



大きさは12～15cmと大きいよ

ホトケドジョウは口ひげ8本



大きさは6cmと小さいよ

ヒガシシマドジョウは口ひげ6本



体に黒いもようが並んでるよ



両生類

アカハライモリ

環境省レッドリスト：準絶滅危惧

体長は10cmほどで、水辺や浅い池、田んぼなどにすむ。おなかがあざやかな赤色で、とても目立つ。これは警戒色けいがいしよくといい、敵に「食べるとあぶないよ」と知らせるためのもの。子どもこどものころは水中にすみ、エラで息をするが、大きくなると肺や皮膚で息いきをする。すむ場所が減ってきているぞ。 ※子どもこどものことを幼生と呼ぶよ

サンショウウオ

湿った場所や水辺みづべに生息するウロコのない皮膚と長い尾おがじまん。皮膚は粘膜ねんまくにおおわれていて、弾力があり、爪つめを持たない種類が多いぞ。

ヒガシニホンアマガエル

体長は3~4cmほどの小さなカエル。体はみどり色が多いが、まわりの色に合わせて茶色になったりする。田んぼや池、林などにすんでおり、指先きゆうぼんが吸盤になっているので木や草にのぼることができる。春から夏にかけて、「クワックワッ」と高い声で鳴くぞ。

トウキョウダルマガエル

福島県レッドリスト：準絶滅危惧

体長は約4~6cmくらいのカエル。背中には茶色やみどり色の点があり、おなかは白色をしている。

鳴き声は「グググ」と低く、春から夏にかけてたまごをうむ。

田んぼのある場所にすみ、数が減ってきている種だ。



アカハライモリ

アカハライモリは、どちらかというどくと止水環境を好む。特にため池は狙い目だ。



サンショウウオ

ヒガシニホンアマガエル



岩のすきまなどに潜ひそんでいるかも。



トウキョウダルマガエル

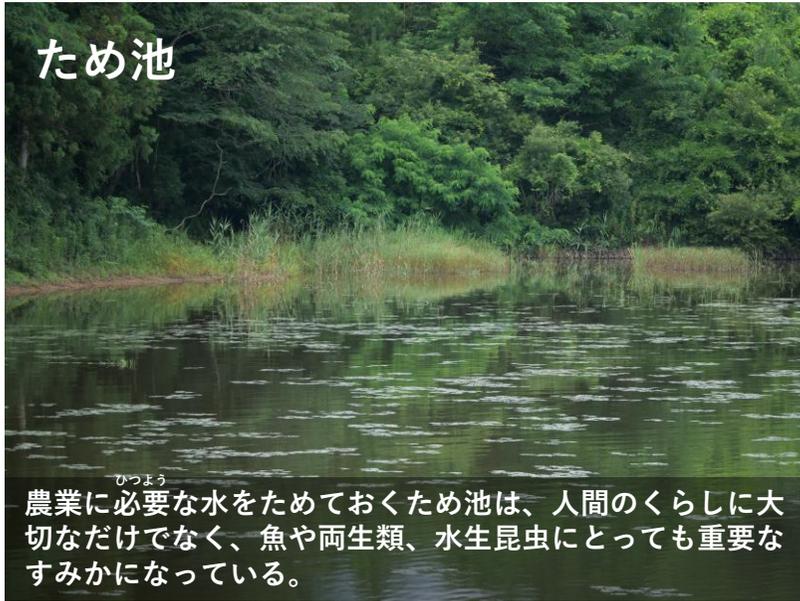


ガサガサポイントをさぐってみよう。



水辺が好きな昆虫

ため池



農業に必要な水をためておくため池は、人間の暮らしに大切なだけでなく、魚や両生類、水生昆虫にとっても重要なすみかになっている。

ミズカマキリ

ほとんど流れがなく、あるていど深さのあるため池のような場所を好む。池とまちがえて学校のプールにもやってくる。近い仲間のタイコウチは英語で「ウォータースコピーオン」と言い、日本語にすると「ミズサンリ」だ。



ゲンゴロウ

環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類



体長5cmほどになり、ゲンゴロウの仲間では日本最大。オールのような足をすばやく動かして泳ぐが、ほかの生きものをつかまえるのは上手ではない。しかし、弱った

生きものやほかの生きものの死体を見つけると、大あごでかじりつく。西日本や関東地方ではほとんどいなくなってしまう。鮫川村では、条例によって保護されているぞ。

モートンイトトンボ

環境省レッドリスト：準絶滅危惧

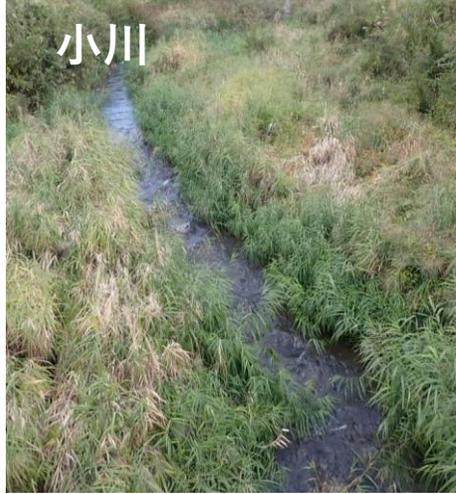


自然豊かな田んぼなどでくらす美しいトンボ。アカネなどの赤とんぼとは逆に、未熟なメスは赤っぽい色だが、成熟すると明るい黄みどり色に変わる。全国的に数が減ってきているぞ。



水辺が好きな昆虫

ホタルの仲間



小川

ゲンジボタル



ヘイケボタル



モイワサナエ



東日本にしかないサナエトンボの仲間。

体長は5cmくらいで、黒と黄色のしまもよう。清流や河川の中流域に生息し、幼虫は川の底にひそんで生活する。水のきれいなところを好むぞ。

ホタルの仲間は世界中に2,200種以上が知られているが、幼虫のときに水中にいるなかまは少ししかない。幼虫は水のきれいな川などにすみ、主にカワニナという貝を食べる。春には上陸してさなぎになり、夏に成虫になる。ホタルの光りかたには「方言」があって、すんでいるばしょによって光り方がちがう。

ホタルたちの方言を守るためにも、そこに昔からくらすホタルを大切に守っていくことがとても大事だ。

アオハダトンボ

環境省レッドリスト：準絶滅危惧



日本の美しいカワトンボのなかま。体長は約5～6cm、オスはキラキラした青みどり色、メスはみどりっぽい茶色ではねにもようがある。水のきれいなところにはしかないぞ。

ハグロトンボ



アオハダトンボに似るが、すこし大きく、6～7cmほどになる。黒いはねをパタパタとたなびかせて川の中を飛ぶすがたは、日本の夏の風物詩だ。

アオハダトンボとハグロトンボの見分け方

見かける時期

アオハダトンボは春～初夏、ハグロトンボは真夏に見られる

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アオハダトンボ					■	■	■	■	■	■	■	■
ハグロトンボ						■	■	■	■	■	■	■

■ あまり見られない時期
■ よく見られる時期

はねのもよう

アオハダトンボ・・・メスに白いもようがある

ハグロトンボ・・・メスもオスももようはない





森林が好きな鳥



森林では、キツツキが木をたたく音や、小鳥たちがむれで飛ぶすがたを見ることができる。目で見つけるのがむずかしいときは耳をすまして、鳴き声を聞いてみよう。

キツツキの仲間

アカゲラ



アオゲラ



コゲラ



木をつついてえさをさがす鳥たち。鮫川村にはこの3種がいる。木をたたいて音を出すことを「ドラミング」といい、なわばりのアピールに使う。森では木のみきをさがしてみよう。

カラの仲間

シジュウカラ



ヒガラ



ヤマガラ



コガラ



エナガ



シジュウカラやヤマガラなどをカラ類といい、ちがう鳥と仲よく集まって「混群」を作る。近年、仲間と気持ちを伝えあうための「言語」をもっていることが分かってきたぞ。

夜に鳴く鳥たち



フクロウ

ヨタカ

鮫川村には、夜行性の鳥がすんでいて、夜になると鳴き声を聞くことができる。夜になると活動を始めるこれらの鳥たちは目や耳が良く、暗やみの中でもえさを取ることができる。夜の森に耳をすませてみよう。



水辺が好きな鳥



水辺には魚や虫がたくさんいるため、それらをねらって鳥がやってくる。泳ぎがとくいなカモの仲間はその代表といえる。水あびをしにくる鳥も見られる。

カモの仲間

カルガモ



くちばしの先は黄色
一年中いる

コガモ^{オス}♂



冬しかいない

コガモ^{メス}♀



♀は地味な色

カモの仲間は水に浮かんで泳ぐ水鳥である。その多くは冬になると日本にやってくる冬鳥だが、カルガモは一年中見ることが出来る。田んぼや流れの緩やかな川をよくさがしてみよう。

そのほかの水辺の鳥たち

ハクセキレイ



背中^{しなか}は黒
顔は白
最も普通

セグロセキレイ



顔が黒く
白いまゆ
が目立つ

キセキレイ



腹^{はら}や尾^おの
付け根は
黄色

セキレイの仲間は水辺でよく見られる。体長は20cmくらいで、長いしっぽを上下にふりながら歩き、虫をつかまえて食べる。よく地面を歩いている。特にキセキレイは山あいの川沿いを好むぞ。

アオサギ



カワセミ



カワガラス



体の大きなアオサギは待ちぶせをしてじっとえさを待ち、カワセミやカワガラスは水に飛びこんでえさを食べる。川や池などをじっと見ていると見つけることができるぞ。



農地・草原が好きな鳥



鮫川村は田んぼや畑が多く、かのつのだいらかんこうぼくじょう鹿角平観光牧場のような大きな草原もある。こうした人の生活と自然がまざり合う場所には、そこにしかない鳥たちがたくさん生息している。

村の鳥：キジ

♂



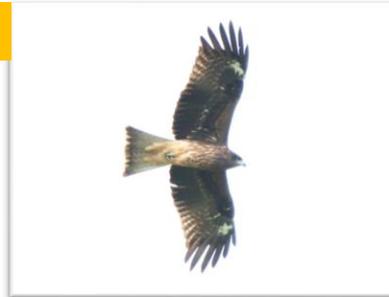
♀



キジは田んぼや畑の近くで見られる大きな鳥。オスはメスに自分をアピールするため、あざやかな色をしているが、メスは子育てをするときに天敵に見つからないよう、茶色っぽく地味な色をしている。飛ぶのが苦手で、地面を歩きながら虫や植物の種を食べる。桃太郎でもよく知られるこの鳥は、村の鳥になっており、鮫川村のシンボルになっているぞ。

ワシやタカの仲間

トビ



ノスリ



ワシやタカの仲間をもうきんるい猛禽類という。ゆったりと風に乗って空をまうのがとくちょうで、田んぼのまわりや草原でネズミなどをおそって食べる。さがすときは空をじっと見上げてみよう。

その他の小鳥類

ヒバリ



福島県レッドリスト：
準絶滅危惧類

モズ



鮫川村の農地や草原にはヒバリやモズなどの小鳥が生息している。ヒバリは、草原に生息する鳥で、鹿角平観光牧場でたくさん見られる。春から夏は、けたたましく鳴きながら空高く飛び、なわばりをアピールする。モズは木のとっぺんや電線にとまり、虫や小さな生き物をじっとねらっていることが多い。畑のそばで鳴き声をたよりにさがすと見つけやすい。捕らえたバツタやカエル、トカゲなどの獲物を木の枝や有刺鉄線のトゲに串刺しにする独特の習性があるぞ。

ランクが高い

ランクが低い

絶滅>野生絶滅>絶滅危惧ⅠA類>絶滅危惧ⅠB類>絶滅危惧Ⅱ類>準絶滅危惧※ 情報不足
絶滅危惧種（絶滅のおそれのある種）

生きものの調査方法



2024～2025年度に、鮫川村では最先端の方法を使った生きもの調査が実施されたよ。

その結果、日本中に誇れる貴重な環境が鮫川村に残されていることが、次々と明らかになったんだ。

この教材では、そんな鮫川村の素敵な生きものをちょっとだけ紹介するよ。みんなは卒業までに全部見つけられるかな？面白いと思ったら、生きもの研究を深めて、鮫川村の生きもの博士を目指してみよう！！

鮫川村で実施された、二つの先端技術を使った生きもの調査

【環境DNA】

主に水中に存在する、生きもの（ふん等）や組織をとらえて、周りにどのような生きものが生息するか、推定する技術だ。警戒心が強くて普段はなかなか見つけられない生きものも発見できる、今注目の技術だよ。



【音声×AI解析】

鳥の中には、警戒心が強くてめったに姿を捉えられない種や、暗い時間帯にしか現れない種がいる。こういった種でも、レコーダーで音声を記録し、AIを使って鳴き声だけを取り出して解析することで、これまで見つけられなかった鳥の存在に気づくことができるよ。

